

全損保労働運動と関わって —いま、本当に大切なこと—

1. はじめに（自己紹介をかねて）

* 耄碌（もうろくのつぶやきとは？・・・つぶやきにこめた思い）

<忙中閑話・耄碌のつぶやき-おわりに>2013.3.28

最終日です。

これを書かずに終わると、最後が漫才となります。

それはそれで私らしさが満杯なのですが、

最後はまじめに！との叱責もあり、したためます。

自分の好きな言葉に「生き様」があります。

66年も生きれば、それなりに頑固さも出てくるのですが

人間というものは変化し続けることに値打ちがある、

と思います。

*もともと困ったことに良くも悪くも変わるのだけれども。

猿の脳みそは7ヶ月で成長が止まります。

人間の脳みそは22歳ぐらいまで成長します。

で、猿は7ヶ月の後に脳みそのみならずそのまま猿なの

ですが、人間は22歳からさらに人間となっていくことが

できます。

「生き様」とはその人間としての成長を追い続けることだ

と思います。

このように書くと、「生き様」はあたかも一人で追求するかのよう

に読めます。

けれども人間は一人ひとりが努力することのなかで、実はその人と触れ合う周りの人々によって、生かされ、成長させてもらっていることに本質があります。

私は人生を「玉砂利の道を歩く」ことによく例えます。

(明治神宮の参道をイメージしてください。)

自分が踏み出した一步の足の下に、その歩みを支える玉砂利

があります。

それが自分と触れ合ってくれた人々です。

土踏まずに当たる心地よい感触も、尖って痛みを覚える感触も

その人々の感触が支えになって次の一步を踏み出し、そして

歩みを続けるのです。

さて、退職してどのように変化・成長ができるのか、あらたな

チャレンジが始まります。

少なくともこれまで、人間としての歩みを続けてきたということ

を自らの確信にしながら。

みなさまが人間としての魅力をますます磨かれることに、

大いに期待します。

ではでは、またその気になったときにつぶやくことがあるかもしれ

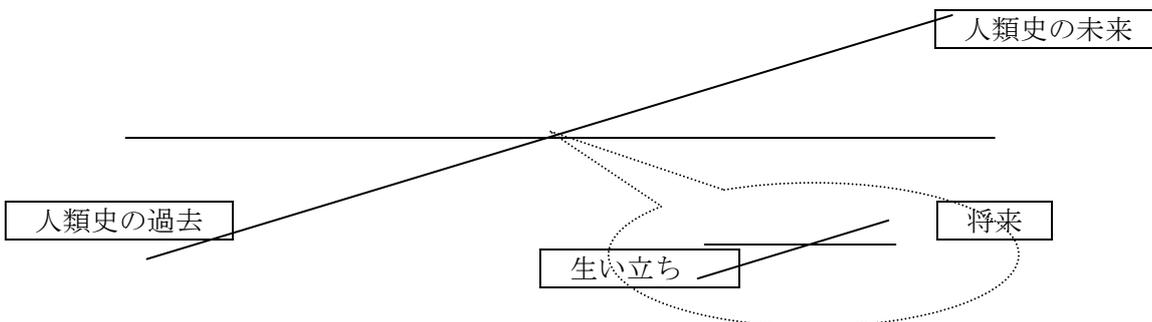
ません。

なぜなら、皆さんがつくってくれた金山爺だからです。

*退職後の生活の中で改めて大切に感じること

2. 人間らしさとは

*人間は「人間」になる・猫は猫である



・人は、人類史をその生い立ちから一身に取り込み人間になっていく

言葉を覚え、文化や教養を身に付け、理性はぐくむ

・人は人によって育てられ、人によって成長する

・人格を形成し、人間になる

*人間性とは・・・正義感、感受性、思いやり → 人を大切にする心・やさしさ

*幸福の基準…健康、衣食住、人に愛される（人に大切にされる）、人の役に立つ

*人間は過去と将来を意識できて、いまを生きる存在（その日暮らしではない）

・人間の価値は全地球より重い（「人間の尊厳」）



3. いまの世の中におもうこと

<人が人間になっていくプロセスが歪められていく>

* こどもたちの環境

- ・学童保育・・・待機児童、・ラインー既読無視ーいじめ
- ・地方教育行政の見直し（中教審・・・首長に権限）・・・ex はだしのゲン
- ・大学でアポ取り実習

* 職場の状況

- ・長時間労働（一人一言）、・追い出し部屋ー雇用の義務（解雇規制）

* 規制緩和・・・資本の身勝手、・制度・基準の切り下げ

- ・労働特区（競争力のための解雇）、・ホワイトカラーエグゼンプション（残業代ゼロ）
（規制改革会議・産業競争力会議）、・法人税特別区（競争力のための無税）

<儲けがすべての世の中>

- ・・・人の幸せのために作られた基準が変えられていく（悪化を乗り越えて逆転）

* 勝ち組負け組

- ・赤ん坊取り違え事件、・I P S細胞ーT P Pと特許

* 原発再稼働の動き（経産省エネルギー基本計画・⇔ドイツ）

<歴史の歯車が軋む時代>

- ・秘密保護法の強行→共謀罪の検討、・武器輸出三原則の見直し
- ・国家安全保障戦略・・・愛国心、

* 憲法9条改悪にとどまらない本質（国家が国民を支配する）



3. 全損保労働運動との関わり

* 私が生きてきた時代と全損保との関わり

そもそもの労働組合の役割

- ・ふりかかる火の粉を払う
- ・要求を実現する
- ・社会変革の先頭に立つ

* 誰も今をいいとは思っていない

- ・いまの職場、いまの損保
- ・原発再稼働反対が多数
- ・特定秘密保護法に反対は8割

* 「相談もできずにやめていく人を無くす」・・・集まれば、語り合いが始まる

- ・集まり語り合うことは人間性を守ること
- ・仲間を大切にし、人間らしい社会を目指す第一歩

* 自らも人間として生き、人間性を守る

- ・人間のまなざしの基準を持って生きる
- ・21世紀に生きる人間としてよりよい明日をつくっていくために